

取場・生産点からの反撃で35万人体制を粉碎しよう



82.1.14

No. 942

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)055(22)七二〇七

〔2〕国鉄の全面的再編を狙う「経営改善計画」の内容



国鉄三五万人体制合理化計画は、国鉄当局が一九七九年七月「一九八五年度において職員三五万人体制を実現する。」として「国鉄再建の基本構想案」を発表し、同年十二月、大平自民党政府が閣議了解「日本国有鉄道の再建について」を決定し、一九八〇年十一月二十八日、「日本国有鉄道経営再建促進特別措置法」が国会において成立し、さらに、この「国鉄再建法」第四条にもとづいて、国鉄当局が一九八一年五月一日、「国鉄経営改善計画(案)」を運輸大臣に提出したものです。そして、この「経営改善計画」の細部にわたる具体的、全面的な大合理化計画を去る九月二一日、国鉄内各労組に提案してきたのです。つまり、この「経営改善計画」は、「国鉄再建法」という法律を背景として打ち出されてきたものです。

後のない計画として打ち出された「経営改善計画」

この「経営改善計画」は、I 基本方針 II 経営改善の具体的方策 III 収支改善の目標 IV 部門別経営改善計画とからなっています。

まず、I 基本方針では、「国鉄経営は、危機的状況にある」として、①都市間・大都市圏旅客輸送、大量・定型貨物輸送などに経営を重点化する。②輸送力・営業範囲の縮小など徹底的な減量化をはかる。③運賃の適時適切な改定を行う。④正常かつ円滑な労使関係の確立 ⑤行財政上の措置としてこの「経営改善計画」が「後のない計画」であり、「不転換の決意」でこの完遂を期す。」とされています。

国鉄の全面的再編を狙う、「経営改善計画」

II 経営改善の具体的方策では、①輸送力の近代化のため、都市間・大都市圏旅客輸送及び大量定型貨物輸送を中心に効率的な輸送システムを確立する。又鉄道特性を發揮し難い分野については、輸送力の見

・特別地方交通線の廃止・バス輸送などへの転換をはかる。とされています。

III 収支改善の目標、において、I・IIの施策を確実に実施することにより、①一九八五年度までに国鉄財政の一般営業損益において出来るだけ多くの益金を出す。②幹線の損益において収支均衡を達成する。③地方交通線・退職手当・年金負担など構造的問題については、行財政上の措置を求める。とされています。

さらに、IV 部門別経営改善計画において、徹底した合理化計画の内容をより具体的に明らかにしています。この点については、次号で検討することになります。(以下、つづく)

● 勤労千葉団結旗開きに結集しよう.....

日時 1982年1月16日 13時~

場所 労働者福祉センター・大ホール

〔プログラム概要〕

- 主催者あいさつ 関川 幸執行委員長
- 講演「『右翼労働問題』と三里塚闘争」 高島喜久男(労働運動評論家)
- 基調「82年をいかに闘うか」 中野 洋 書記長
- 各支部決意表明
- 連帯あいさつ 三里塚反対同盟、県労連、顧問弁護団、他
- アトラクション 民謡、ギター演奏、各支部対抗カラオケ大会、他

